

CONTENTS

- 卷頭言
- 2020年全国学術大会自由論題・テーマ分科会募集のお知らせ
- 事務報告
 - 2019-20年第3回常任理事会議事録
 - 2020年度理事選挙実施スケジュールの遅延について
- 第16回太田勝洪記念中国学術研究賞の発表・授与について
- 地域部会報告
 - 東海部会第14回研究集会
- 学会スケジュール（予告とお知らせ）
 - 関東部会修士論文報告会延期のお知らせ
 - 2020年度関西部会大会のご案内
 - 西日本部会2020年度研究集会のお知らせ
- 日本現代中国学会事務局あて寄贈図書・雑誌

■ 卷頭言

方方『武漢日記』をめぐる小さな空間

加藤三由紀（和光大学）

春節から武漢封鎖解除までの60日間、方方が発信し続けた武漢日記が世界各地で話題になっている。日本でも日記の内容や作者への罵声が報道され、翻訳も準備されているという。彼女の長編小説『軟埋』（2016年、書店側の付度により回収されたとされている）と同様に、生きよ、そして記憶せよと語りかけてきた作家らしい日記で、名言がバーチャルも交えた私的な体験から紡がれるのが魅力だ。以下は、私が参加している微信グループ3つの小さな空間で武漢日記が巻き起こした風波の記録である。

1つめ、長く続いているこのグループでは、要のメンバーから「武漢」、「病毒」など新型コロナウイルスに関わる発言は全て消去せよとお達しが出た。そんな語彙が飛び交うグループは、2月2日夜8時に一斉に閉鎖されるから、というのである。ガセネタですよという発言があり、誰も自分の発言を消去しなかったし、2日も新型コロナウイルス関連の情報が続々寄せられたが、何事もなく夜8時が過ぎた。

2つめのグループには、3月30日に閲読アンケートが回ってきた。回答すると、その時点での集計が返ってきた。学生や研究者を中心に数百人の返答があり、方方を支持する人が多数で、隠蔽を許さない姿勢に共感が集まっていたように思う。思う、というのは、しばらくしてアクセスできな

なくなってしまったからである。アンケートの設問の文言に関わるやりとりも消えていた。このグループはしばらく前から死に体だったが、アンケート後に一時息を吹き返し、郗元宝「此時此刻的“写”与“不写”—關於“方方日記”及其他」がシェアされた。郗氏のエッセイは、方方日記への攻撃と擁護の理路をたどったのち、新型コロナウイルスパンデミック以来、ネット上にはアマチュア文筆家の発信があふれ、お上を恐れて口をつぐむ「声なき中国」ではないこと、そして、抗議や直言は素晴らしいが、それでも、沈黙する権利と沈黙する理由（専門化された学术界と言論空間の欠如）を理解せよと語る。これに賛同が寄せられた。

3つめのグループの主宰者は、小学校卒の学歴で、起業して財をなし、郷土である山西省某市の郷土本を収集して私設図書館を建てた人である。この地に住む文筆家が主なメンバーで、ルポルタージュ作家の趙瑜も加わっている。2月上旬は李文亮医師を悼む言葉にあふれた。2月末に武漢日記が紹介されると、主宰者から文人の集まりに政治論議はやめましょうと注意があり、いやいや、方方は有名な作家ですよと声が上がってやりとりが続いた。主宰者は思いあまったのか、4月初めに、こんなメッセージを出した。「芸術を仲立ちにしたグループなので、国家レベルのことは私たちが関わることはありません。一人ひとりが自分の仕事をなすことが最良の結果をもたらすのであり、外の世界は複雑で、関心を持ちすぎると、ろくな事にはならないのです。」

我が友人とのやりとりも追記したい。友人は、共産党員として職場から居住地区のボランティアにかり出された。一ヶ月間、門番や見回り役を担ったという。その活動記録もつけなければならない。戦い抜こうと歌う自作の詩を送ってくれたので、うっかり声援を返したら、「自由がないのはつまらないけれど」の詩句が肝なのに、とがっかりされた。添付されていた写真の中には、「雷鋒に学べ」の横断幕を持ったボランティア数人の集合写真があった。この街でも3月25日から平常勤務に戻ったとのことである。方方の日記には、コミュニティを維持するために動く人びとへの感謝と賞讃が記されている。閉鎖空間を維持する街道や村の委員会、それに混入してくる人たちの役割や協働に人の世のニューノーマルを考えるヒントがあるかもしれない。

さて、このニューズレター第60号がお手元に届くころ、世がどうなっているのかはわからないが、多くの方が疫病流行以前とは少し違う役割を担っておられるのではなかろうか。家庭で、ご近所で、あるいはこれまで素通りしていた所や疎遠になっていた人との関わりに、人から期待されること、自ら求めるものがある。日常が一変したのは確かだが、医療、子育て、介護、雇用など、今切迫している課題はこれまで目を背けたり先延ばしにしてきたことである。疫病が鎮まった後、もとの世の中に戻ればよいとは思えず、ニューノーマルを求めてなにがしかの力を出したいが、社会として乗り越えるべき課題に今突然関わろうとしても難しいのが情けない。現状では、自宅にいるから両隣さんに声をかける機会が増え、情報を頂いたり励まされたりしている。買い物もご近所のお店になった。今はそんなささやかで自然な行動が地域のひとりとしての役割かと思う。また、これまで平日の日中にあまり見かけなかった子ども連れの父親の姿を、この4月にはしばしば見かけるようになった。この非常時にのんきなことをと鬻蹙をかきそうだが、疫病沈静化後も続いてほしい眺めである。

学会の将来の発展を見据えて、ワーク・ライフ・バランスと学会託児を語った前号巻頭言は、実に読み応えがあった。執筆者の学会「大番頭さん」、菅原慶乃事務局長には、子守を何度かお願いしたことがある。20年ほど前の在外研究期間、まだ北京友誼賓館が庭園ホテルだったころ、たまたま菅原さんが北京に留学されていた。私は在外研究前の3年間ワンオペ育児で、女性職員が多い勤務

校で、おまけにワンオペ先輩の男性教員が同僚だったからずいぶん助けてもらったが、当時は携帯電話がなく保育園から職場にしばしば電話がかかった。「子育てに忙しい先生」といわれていたことを知ったのは、幸い最近である。子育て渦中だったら心が折れていただろう。申し訳ないことに、20年後も状況は変わらず、菅原さんが今、綱渡りの子育てである。そして、その世代が学会も育てている。ライフを取りこんだ学会託児や、コロナ禍で物理的距離をとるだけに一層求められる協働も、学会のニューノーマルを創っていくにちがいない。

学会費を遅滞なく収めるだけを取り柄の筆者による私的で小さな巻頭言、コロナ禍がよびこんだ生活臭とご寛恕頂きたい。

■2020年全国学術大会自由論題・テーマ分科会募集のお知らせ

会員各位

2020年日本現代中国学会全国学術大会を、10月31日(土)・11月1日(日)の両日、明治大学駿河台校舎において開催することになりました。次ページ以下の応募要項の通り、会員の皆様から自由論題の報告希望者およびテーマ分科会の開催希望者を募集いたします。奮ってご応募くださいますようお願い申し上げます。

なお、新型コロナウイルスの流行状況によっては、開催日程、方法などについて変更を余儀なくされることも考えられます。この点をご留意いただくようお願い申し上げます。

今年の全国学術大会の共通論題は「大中華圏における互動、凝集、離反の力学変遷」です。

大陸中国、香港、台湾という3つの華人社会が織りなす相互作用の力学が、戦前から今日まで、いかに質的な変遷を遂げてきたかを、歴史・政治、法、経済、文化・文学・言語の各領域に即してトレースします。大陸中国が戦後、「近代」の軌跡を外れ、社会主義の道を選択したのに対して、香港、台湾では資本主義が維持され、むしろ国際社会と共にありました。台湾は中華民国が大陸で目指した「近代」の遺産を引き継ぎ、近代国家建設が推進されました。香港は大陸中国からの亡命者の拠点となり、国際社会に開かれた経済や文化の窓としての役割を担うこととなりました。香港も台湾もアジアのリトルドラゴンの一角を占めて、経済の高度成長を遂げました。1970年代以降、大陸中国が国際社会へ復帰すると、台湾では政治の民主化が起動し、選挙によって定期的に政権交代を繰り返す民主政体を成熟させるに至りました。他方、1997年に植民地・香港が中国に返還され、香港は「一国二制度」の建前のもと特別行政区となり、この前後から大陸中国の市場経済化、経済成長を牽引していきました。改革開放から2000年代の初めくらいまでは、大陸中国の人びとにとって、香港、台湾はあこがれの的であり、法制度、経済、文化の面で学ぶべき対象と認識されたのです。煽情的な「港台歌曲」の旋律、歌詞は大陸中国人の心を深く魅了し、ポップカルチャーの流行も港台の後を追いました。ところが大陸中国が急速に経済発展を遂げ、港台を遙かに凌駕するに至ると、それまでの関係力学は大きく変容していきます。とくに経済的には香港、台湾はむしろ大陸中国への依存度を高めていき、それは人、カネ、モノ、情報の流れを大きく変えていきました。たとえば、香港や台湾の若者が高給に引かれて大陸中国に出稼ぎに行ったり、中国の名門大学に留学し、学位を得たりすることもありふれた光景となります。しかし、こうした局面には最近、とく

に昨年くらいから急速に再度の変容が生じつつあるように見えます。恐らく 2019 年に香港で生じた「反送中」に端を発した民衆運動は、経済力にもものを言わせた大陸中国の優越的構造に新たな変化を生じさせつつあります。さらに、2020 年 1 月の台湾総統選挙における蔡英文氏の圧勝にも、香港での一国二制度の行き詰まりが大きく結果を左右したと言われます。そして、今般のコロナ禍の世界的蔓延も大中華圏の構造に微妙な影を落としているように見えます。このように大陸中国の経済成長に陰りが見えてきたこととも相まって、大中華圏の互動関係は新たな歴史的段階に入ったものと見られます。そうした歴史の転換点にある現在、戦前以来の 3 つの政体の互動関係の質的変遷を振り返り、将来の行く末を展望してみたいと考えています。

応募要項

自由論題の報告希望者およびテーマ分科会の開催希望者を以下のように募集します。事務的混乱を避けるために、やや煩瑣なご依頼事項を列挙しておりますことをご許してください。

①自由論題での報告（一人の報告時間は 25 分程度）をご希望の会員は、氏名・所属・報告テーマおよび要旨（800 字程度）を下記⑩の連絡先までお送りください。なお、大学院生は指導教員、またはそれに相当する会員の推薦状（推薦者の氏名、所属、連絡先、推薦理由を記載。書式は自由）が必要です。報告者は会員でなければなりません（非会員の場合は下記⑤を参照）。

②テーマ分科会の開催（報告者 2～3 名、約 2 時間）をご希望の会員は、企画者の氏名と所属、企画テーマ、討論者の氏名と所属、司会者の氏名と所属を確定したうえで、下記⑩の申込先までお送りください。分科会は原則として会員で構成するものとし、変更はできません。確認のため、報告者、討論者、司会者が会員であるかどうかを明記してください。

③自由論題およびテーマ分科会の応募に関するご連絡は、すべて電子メールでお願いします。その場合、ウィルス感染防止のため、添付ファイルは使用せず、メール本文にテキストで記載してください。なお、推薦状も原則としてメールで作成し、応募者はそれを転送するかたち（メール本文にペースト）としてください。どうかご理解とご協力をお願いいたします。

④締め切りは **6月26日（金）** とします。

⑤学会非会員の方で、自由論題での報告をご希望の方は、入会が応募の条件となります。入会申請をしていただいたうえで（日本現代中国学会のウェブサイト <http://www.genchugakkai.com/nyukai.html> を参照）、ご応募ください。入会手続きが報告発表までに完了しない場合でも、応募済みであれば発表は可能です。

⑥大会参加の旅費および宿泊費等は自己負担となります。

⑦報告希望者、テーマ分科会開催希望が多数に上る場合は、内容や会員歴などをふまえて調整させ

ていただくことがありますので、あらかじめご承知おきください。

⑧応募をされた方には、メールにて実行委員会より応募受理の連絡をいたします。メールを送信した後、1週間以内に連絡がないときは、再度メールにてお問い合わせください。

⑨自由論題報告者は、大会10日前の**10月21日（水）**までに報告原稿（フルペーパー）またはレジュメのPDFファイルを実行委員会まで提出してください。提出は任意です。提出された資料にはパスワードを付し、期間限定で学会ホームページに掲載します。なお、パワーポイント等の機器使用を希望される場合は申し込み時に必ず明記してください。

⑩応募申込先は、以下の実行委員会メールアドレスです。

■genchu2020@gmail.com

⑪応募のメール送信をする際、件名を以下のようにしてください。

*自由論題への応募の場合は「自由論題」

*テーマ分科会応募の場合は「テーマ分科会」

この機会に当学会未加入の優秀な大学院生の皆様にも、ぜひ入会と報告発表をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

日本現代中国学会第70回全国学術大会
実行委員会事務局（明治大学鈴木賢研究室）

■事務報告

□2019-20年 第3回常任理事会 議事録

日時：2020年3月8日（日） 13:00～15:30

場所：オンライン会議

参加：菅善平理事長、趙宏偉副理事長、菅原慶乃事務局長、北川秀樹会計担当理事、中川涼司関西西部会代表、間ふさ子西日本部会代表、砂山幸雄東海部会代表、小都晶子広報委員長、田中仁規約・財政健全化委員、開催校代表（2019年）西村正男（オブザーバー）、開催校代表（2020年）鈴木賢（オブザーバー）

欠席：水羽信男編集委員長、中村元哉関東部会代表、川島真規約・財政健全化委員

【議案】

〈報告事項〉

1. 会務報告

菅原事務局長より資料にもとづき会員動向、および会費納入状況が報告された。2019年10月以降、新規入会者11（個人会員）、退会10（個人会員9、団体会員1）、2020年2月末現在の会員数は

個人会員 704 名、団体会員 4 名、合計 708 名であり、概ね横ばいの推移である。会費納入状況は、昨年 1 月末と比較すると「未納なし」会員の割合が 15 ポイント上がり、すでに 5 割を超えている。2 月に催促状を発送した効果が現れていると考えられる。今後は当年度（2020 年度）未納会員にたいしても催促を徹底するように事務局と密接に連絡を取ることを確認した。

2. 会計報告

北川会計担当理事より 2019 年度会計収支報告書・2020 年度会計予算が修正されたことが報告された。すでに学会ニューズレター第 59 号（2020 年 1 月末発行）にも掲載された通り、2019 年度決算の収入金額が修正された結果、収支における齟齬が解消された。

3. 2019 年大会報告

西村 2019 年度大会開催校代表より、全国学術大会が無事に開催を終えたことにたいする謝辞が述べられた。次に、2019 年度大会の会計決算について説明があり、残金は、開催校の意向にもとづき、関西部会の部会費へ組み込むことが報告された。

4. 編集委員会報告

水羽編集委員長が欠席のため、菅原事務局長が資料を代読した。『現代中国』第 94 号の特集は 2019 年度全国学術大会の共通論題にもとづいた企画が進行中である。投稿論文は合計 6 本であり、現在査読進行中である。この他、8 本の書評を掲載する予定である。編集委員が関わった書籍の選定について編集委員会内で意見交換があった。

5. 広報委員会報告

小都広報委員長より、広報業務が概ね順調に進展していることが報告された。具体的には、2020 年 1 月 29 日にニューズレター第 59 号を編集・配信した他、学会ホームページの更新は 2019 年 10 月 20 日以降 17 件行った。内訳は、「学会規約」1 件、「学会役員」2 件、「『現代中国』投稿規定」3 件、「地域部会研究会」4 件、「学会ニューズレター」1 件、「学会掲示板」6 件である。

6. 地域部会報告

中村関東部会代表が欠席のため、菅原事務局長が資料を代読した。関東部会では 2020 年 1 月 12 日に中国近代史研究の最前線をめぐる定例研究会を開催し、2 名が報告した。同日、関東部会理事会を開催し、(1)新規入会者 2 名の承認、(2)5 月 9 日の修士論文報告会の開催、(3)2020 年全国学術大会の共通論題、(4)2022 年度全国学術大会開催校の決定を行った。

中川関西部会代表から、2019 年 12 月 21 日に関西部会事務局会議が開催され、2020 年度関西部会大会の共通論題テーマ「文化消費のグローバル化と中国」、および開催日程（5 月 30 日）、およびスケジュールを決定した。自由論題の募集は、締切を 3 月末まで延長した。また、新規入会者 4 名が承認された。2020 年 3 月 8 日午前に今年度第 2 回目の事務局会議が開催され、新型コロナウイルス感染拡大状況を鑑み、関西部会大会のプログラムが確定する 4 月下旬の状況をもって、大会開催の可否を決定することを確認した。

間西日本部会代表より、2 月 27 日に西日本部会理事会が開催された。西日本部会の 2020 年研究

集会が6月13日（土）に開催予定であり、現在報告者募集中である。

砂山東海部会代表より、12月19日と3月7日に2回の理事会が開催され、幹事2名の選出（川尻文彦会員、武小燕会員）、新規入会者1名の承認を行ったことが報告された。また、3月7日には東海部会第14回研究集会が開催され、4名が報告した。

7. その他

菅原事務局長より以下の各点について報告された。

2019年12月に、地域研究学会連絡協議会（JCASA）、および東洋学・アジア研究学会連絡協会の総会が開催され、趙副理事長が参加した。また、JCASA ニュースレターに掲載する本学会の紹介文の草稿が回覧され、内容を確認した。

日本学術会議より、昨年実施された「実態調査」への本学会の協力にたいしてのお礼があった。

『現代中国』PDF化作業について、第16号～第64号までの紙面のPDF化が進んでいない。各大学図書館等での所蔵を調査した結果、関西大学と同志社大学が比較的網羅していることがわかったため、今年度末を目処に対象となる全ての号の紙面PDF化を進める。

〈審議事項〉

1. 2020年全国学術大会の開催について

鈴木2020年開催校代表より、資料にもとづき共通論題の趣旨説明と形態について提案された。共通論題テーマは「大中華圏における互動、凝集、離反の力学変遷」（仮）とし、歴史・政治、法、経済、文化・文学・言語の4つの領域から報告者が1名ずつ登壇し、コメンテーターを2名立てるという内容について、常任理事会としてこの方向を了承した。日程について意見交換を行い、2020年10月24日（土）、25日（日）を第一候補、10月31日（土）、11月1日（日）を第二候補とすることを決定した。

全国大会関係の広報業務の分担について小都広報委員長より次の提案があり、了承された。開催校は、(1) 2020年10月発行第61号ニュースレターの巻頭言の執筆（2000字程度、9月中旬頃締切予定）、(2) 報告要旨（自由論題報告および分科会、エントリー時に応募者から提出されたもの）および任意提出のフルペーパー・レジュメのPDF化、および広報委員会ホームページ担当者への送付、(3) 2021年1月発行第62号ニュースレター掲載の共通論題報告文（2020年12月頃締切予定）の執筆を担当する。次回大会より、学会サイトに掲載されたフルペーパー・レジュメの取り下げは認めないことを確認した。

報告要旨集の発行形態、大会参加費のあり方、学会口座の管理方法について意見交換した。

今後は4月中旬を目処に自由論題報告・企画分科会の募集を行うことを確認した。

2. 2021-2022年度理事会選挙について

各地方部会より選挙管理委員が推薦され、承認された。今後は、日本現代中国学会理事選挙実施規定（試行）案に明記されたスケジュールに従って作業を進めていくことを確認、了承した。今後の選挙管理委員会のあり方、選挙実施規定（試行）案について懇談した。

選挙管理委員会：岡野翔太・楊秋麗・章胤杰（関西部会）、吉見崇（関東部会）、和田英穂（西日本部会）、武小燕（東海部会）

3. 会員名簿の発行について

2020年度会員総会で承認された通り、前回と同様の内容・仕様（氏名、ふりがな、所属機関・専門分野、メールアドレス）により学会名簿を発行することを決定した。

4. 再入会の扱いについて

再入会にあたっては、現行の再入会規定を引き続き運用することを確認、了承した。

5. 2021年大会（西南学院大学）での企画委員会について

厳理事長より、2021年開催の西南学院大学大会より、全国学術大会において役員体制にある企画委員会を実質化し、大会実行委員会（開催校を中心に大会運営）と企画委員会（共通論題、企画分科会、など）の役割分担を図ることが提案され、了承された。

学会の役員体制では、「企画委員は、各部会代表、編集委員長、学術大会実行委員会または準備委員会の委員長からなり、開催地部会代表が委員長となる」とあるが、企画委員会の人選については状況に応じて柔軟に対応することを決定した。

6. その他

関東部会より、2022年全国学術大会は新潟大学で開催することが提案され、了承した。

次回常任理事会は2020年7月11日（土）、14：00～17：00 明治大学で開催する。

以上

□2020年度理事選挙実施スケジュールの遅延について

会員各位

本学会の業務を委託している中国研究所が、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け3月27日より暫時閉鎖することになりました。再開時期は現時点では未定です。

このため、「日本現代中国学会理事選挙実施規定（試行）案」に定められた選挙実施スケジュールに遅延が生じることとなりました。

常任理事会及び選挙管理委員会は、今後状況に応じて可能な限り迅速に対応します。変更後の具体的な日程等が確定しましたら、電子メール及び学会ウェブサイトにて周知します。

会員の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご了承、ご協力のほどお願いいたします。

2020年4月2日

日本現代中国学会常任理事会・選挙管理委員会

■第16回太田勝洪記念中国学術研究賞の発表・授与について

第16回太田勝洪記念中国学術研究賞は、『中国研究月報』編集委員会より推薦のあった下記論文が選ばれた。2020年1月25日（土）に中国研究所で開催された授与式において、杉山文彦

中国研究所理事長より受賞論文の発表および賞状・賞金の授与が行われた。なお、日本現代中国学会の『現代中国』編集委員会は今年度の推薦を見送った。

受賞作品：

◎周俊「中華人民共和国建国前夜における幹部の南下動員に関する考察—華北地域の農村・都市部の比較から」

(『中国研究月報』2019年10月号)

■地域部会報告

□東海部会第14回研究集会

3月7日(土)、愛知大学車道校舎において、東海部会第14回研究集会が開催された。今回の研究集会は新型コロナウイルスの感染拡大が懸念され、全国の学校に政府から休校要請が出された中で開催された。事前に東海部会理事の間で意見交換し、感染拡大防止に十分に配慮した上で、開催することとした。出席者は約20名とふだんよりやや少ない程度で、予定通り4報告が行われ、活発な議論が行われた。

玉置文弥(愛知学院大学大学院文学研究科)「世界紅卍字会と大本教—提携初期の活動と「満蒙」は、関東大震災後の提携から出口王仁三郎の「入蒙」、世界宗教連合会結成までの過程における両団体内部の動向と、その周辺の日中双方の政客・軍人らとの錯綜する関係について論じた。先行研究を踏まえつつ、外交資料など一次資料に基づき実証的に実態を明らかにしようとする意欲的な報告であった。事実確認の質問が続いたが、容易に把握し難い対象だけに、分析視角のいっそうの明確化が望まれる。

川尻文彦(愛知県立大学)「梁啓超「東学」再論」は、梁啓超が摂取した「東学」(明治日本における西洋学)の意義を糸口に、中国近代思想史の方法論的反省を論じた。洋務/変法/革命の三段階論、西洋の衝撃論、「概念」史、「空間論的転換」、「思想連鎖」等、各種の方法論を振り返りつつ、「複数製の近代と文明」「多元性や複雑性」などが今後の研究のキーワードになるという。語り尽くされた感のある梁啓超を論じながら、中国近代思想史の新たな探求の可能性を示唆する報告であった。

李昱(九州工業大学)「中華人民共和国1956年～58年の留学生の選抜—高い質を目指す高等教育部の改革を通して」は、1950年代のソ連留学をめぐる方針転変について報告した。56年に党中央の打ち出した「高い質を目指す選抜方針」にもとづき、高等教育部は選抜方法等の改革を試みるが、反右派闘争の余波で挫折する。ここには学業面の質の確保と工農幹部優先の共産党の教育理念との間で矛盾が存在していたとの指摘がなされた。討論で報告者の分析視角等に関して質問があった。

加治宏基(愛知大学)「東アジアのツーリズムをうごかす中国の政治力学」は、東アジアの越境ツーリズムと国際政治との相互関係を検証した。小泉政権下のビジットジャパン事業の始動から2019年10月の日中合意まで、日本人の対中イメージの好転を図る中国側に対し、日本側は訪日客増加による経済効果を期待するものであり、両国のツーリズム振興は同床異夢であると論じられた。本報告に対し、政治的帰結のアセスメントが必要である、訪日客増加を後追いして政策合意がなされ

たのではないか、との指摘があった。[記：砂山幸雄会員、工藤貴正会員]

■学会スケジュール（予告とお知らせ）

□関東部会修士論文報告会延期のお知らせ

関東部会では5月9日（土）に恒例の修士論文報告会を実施するため、準備を進めて参りましたが、新型コロナウイルスの流行拡大を受け、同会を延期することと致しました。本件の開催につきましては、以下の方針で対応致します。

1. 開催の日程につきましては、感染の状況を見て改めて決定します。報告者・会員の利益に鑑み、コメントや交流などを最も活発に行える対面方式での開催を理想としますが、夏頃までに感染収束の目処が立たない場合は、ウェブや文書回覧などの方法による開催に切り替えることも検討します。開催日の1ヶ月前までに、新しい開催方式・日程を皆様にお知らせ致します。

2. すでに推薦を受けた報告者につきましては、報告内定とさせていただきますので、報告の準備を進めておいて下さい。履歴書等への報告実績の記入が必要な場合は（日本学術振興会特別研究員職への応募など）、「日本現代中国学会関東部会修士論文報告会にて報告の予定」の旨、記述して頂いて構いません。一方、日程変更に伴い報告を辞退することを希望する方は、その旨関東部会総務担当までお申し出下さい。

3. 報告者の受付は、当初の4月20日〆切を延長して続けますので、理事・会員の皆様はふるってご推薦下さい。推薦の方法は既報の通りですので、学会サイトをご参照下さい。応募〆切は、新しい開催日程の決定・発表後、1週間の時点までとさせていただきます。

お問い合わせ先：関東部会総務担当

倉田 徹 tkurata@rikkyo.ac.jp

【追記】 延期した修士論文報告会は、現在調整中です。後日、HPとメールでお伝え致します。

□2020年度関西部会大会のご案内

日本現代中国学会 2020年度関西部会大会のプログラムをお届けいたします。すでにご案内したとおり、日本現代中国学会関西部会事務局は会員の感染防止を最優先するとともに、会員の研究交流の場を確保するため、今年の部会大会は対面形式での開催は取りやめ、すべてオンラインでの実施とすることとなります。

■【共通論題 シンポジウム】

*開催会場：無。Zoom上でのオンライン開催。

(参加が必要となる URL とアクセスに必要なパスワード類は、改めて詳細決定後お送りします。)

***開催日時：2020年5月30日（土）**

テーマ「文化消費のグローバル化と中国」

13:30～13:40 司会・趣旨説明：中川涼司（立命館大学）

13:40～14:25（文学）上原かおり（フェリス学院大学）

中国 SF 文学の発展とグローバル化

14:30～15:20（映像）中根研一（北海学園大学）

中国特撮/アニメ製作の発展とグローバル化

15:25～15:45 コメント 立原透耶（作家）

15:45～16:45 フロアを交えた討論

■【自由論題報告】

***開催会場：無。オンラインの非同期（ノンリアルタイム）開催。**

***2020年6月1日（月）～6月8日（月）報告資料と討論者のコメント公開、質問・コメント受付**

***2020年6月15日（月）～報告者からの回答文章公開**

■第一報告 張曼青（大阪大学・院生）

「中国小規模耕種農家の化学肥料依存の施肥行為に影響する「習慣的経験」に関する一考察」

コメンテーター：北川秀樹（龍谷大学）

■第二報告 許俊卿（大阪大学・院生）

「メディア研究におけるフレーム理論の扱いに関する日中比較—リスクコミュニケーションと関連する視角からの分析—」

コメンテーター：櫻井次郎（神戸市外国語大学）

■第三報告 中岡美雪（北九州市立大学）

「中国都市部の住宅価格動向と購買行動—上海と天津を事例に—」

コメンテーター：辻美代（流通科学大学）

■第四報告 王石諾（大阪大学・院生）

「福島原発事故による不可視なリスクに対処する在日中国人留学生のライフストーリー」

コメンテーター：日野みどり（愛知大学）

■第五報告 吳穎濤（大阪大学・院生）

「中国近代文学における「蚕」の表象、バイオパワー、エコクリチズム」

コメンテーター：濱田麻矢（神戸大学）

■第六報告 杉谷幸太（JICA 緒方研究所 非常勤研究助手）

「新型コロナウイルス対応をめぐる『人民日報』の報道と習近平政権」

コメンテーター：鈴木隆（愛知県立大学）

■関西理事会のご案内

共通論題シンポジウム開催前の11:00～12:00に関西理事会を開催いたします。関西理事の方

は5月22日(金)までに出欠を事務局総務担当の何彦旻宛お知らせください。

関西部会事務局：〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町 56-1
立命館大学国際関係研究科 中川涼司研究室
連絡先：事務局総務・何彦旻（追手門学院大学）
j a m c s . k a n s a i [アットマーク]gmail.com

□西日本部会 2020 年度研究集会のお知らせ

会員各位

標記研究集会を以下の要領で開催いたします。今回は状況に鑑み遠隔会議システムを使用したリモート研究集会を行います。日頃はなかなか参加していただきにくい他の部会のみなさまにもオンラインでご参加いただければ幸いです。

記

一、日時：2020年6月13日(土) 14:00～16:10 (予定)

二、方式：Webex Meetings によるリモート方式

※アクセス方法につきましては学会事務局より配信されますメールをご参照ください。

三、プログラム

14:00 開会

14:05-14:35 [第一報告・政治分野] 司会：大澤武司会員

渡辺直土会員（熊本大学）「習近平政権における党と国家の機構改革（仮）」

(10分インターバル)

14:45-15:15 [第二報告・経済分野] 司会：下野寿子会員

登り山和希会員（長崎ウエスレヤン大学）「地方港湾における中国人クルーズ旅客の消費行動に関する変化と課題～長崎港での事例～」

(10分インターバル)

15:25-15:55 [第三報告・社会分野] 司会：金縄初美会員

尾崎孝宏会員（鹿児島大学）「内モンゴルにおけるラクダの商品化に見られるモンゴル国南部地域との関係性」

(10分インターバル)

16:05-16:10 西日本部会総会

16:10 閉会

連絡・問い合わせ先：

間ふさ子（福岡大学）aida[at]fukuoka-u.ac.jp

大澤武司（福岡大学）osawatakeshi[at]fukuoka-u.ac.jp

■日本現代中国学会事務局あて寄贈図書・雑誌

上記の通り、本学会の業務を委託している中国研究所が現在閉鎖中のため、事務局あての寄贈図書・雑誌を確認することができません。次号以降のニューズレターにてお知らせすることとします。会員の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご了承のほどお願い申し上げます。

=====

日本現代中国学会事務局
〒112-0012 東京都文京区大塚 6-22-18
一般社団法人 中国研究所内 日本現代中国学会事務局
TEL 03-3947-8029 FAX 03-3947-8039
EMAIL c-genchu[アットマーク]tcn-catv.ne.jp

郵便振替：東京00190-6-155984
広報委員長：小都晶子（摂南大学）
ニューズレター編集：鳥谷まゆみ（北九州市立大学）
日本現代中国学会HP：<http://www.genchugakkai.com>

=====